

## 終章

今回のシンポジウムでは、鎌田慧氏、伊藤奈々恵氏の報告の後に、山本武彦氏、および藤本一美氏からの討論・報告があり、また休憩を挟んで、フロアから多くの質問が出され、真摯なやり取りが展開された。

その中で、我が国が抱える原子力発電所から排出される核燃料の処理、とりわけ、最終処分場を一体どうするのか。政府、県、電力会社、地域住民だけでなく、我々自身につきつけられた大きな課題を専門家も交えてその施策を考える機会を持てたことは極めて有意義であった。

参加者は、齋藤雄志・元ネットワーク情報学部長をはじめ多数で、盛況な内に終了した。また、シンポジウム終了後、近くの『デニーズ』で懇親会を開き、会場では話が出来なかった争点を親しく話しあったことを、付記しておきたい。

なお、今回のシンポジウムの全体の内容については、2016年10月に『志學社』から公刊される予定である。

(文責・末次俊之)